



しょうがい者福祉で43年。 人と環境にやさしい街をつくる あみの一也

自分らしく生きられる社会を

しょうがいのある人もない人も 共に暮らせる地域づくりに奮闘

しょうがいのある方の通所施設などを建設する際は、土地の確保、周辺住民のみなさんへの理解と協力を得る活動、職員募集などを、他の施設職員と一緒に取り組み、事業スタート後は施設長として関わってきました。あみのさんは、しょうがい者福祉の現場がよくわかる人です。



2016年神奈川県相模原市で起きたしょうがい者施設での事件に、大きなショックを受けたあみのさん。またしょうがい者を切り捨てるような考えを犯人がもっていたことにも、強い憤りを感じました。しょうがいをもつ方の家族は、愛情をもって育てており、いつまでも愛情をもちつづけていることを、何度も見てきたからです。生産性や社会の役に立つかどうかだけで人を判断する傾向が広がっているもとで、お互いの存在を認め合い、一人ひとりが自分らしく生きられる社会をつくらなければという考えを強くしてきました。

しょうがいのある方や ご家族とともに歩む

自閉症の子どもたちの通所施設、重度しょうがい者グループホーム、生活支援事業などで43年間勤務してきたあみのさん。

利用者との信頼関係をつくることは、簡単なことばかりではありませんでした。同時に、緊張した様子だった利用者や、好きなことを一緒にやる中で、表情が和らぎ、受け入れてくれてもらえたと感じられることも。

利用者の本当の気持ちが分かり、お互いの関係が近づいたと実感できた時が、支援の中で一番うれしい瞬間でした。

応援コメント

しょうがい者に徹して寄り添う

当時、制度がなかった重度の方のグループホームを始めた時は、日中の仕事のかたわら、泊まり込んで支援にあたるなど、必要な人に必要な支援が提供できるよう、自ら先頭に立って行動する姿勢を学ばせてもらいました。元職場の同僚



戦争体験した父の思い受け継ぎ 平和・核廃絶活動

あみのさんの父親は、第二次世界大戦に複数回召集され、銃弾が足を貫通した傷跡もかかえて帰国。「戦争はどんなことがあってもやってはいけない」といつも語っていました。父親の想いを受け継いだあみのさんは、職場で社会に目をむける職員の集まりの責任者として、平和や人権について考える機会を広げる努力を行ってきました。



党市副委員長として市議とともに実現を推進

2019年秋に、市民の運動の力によって、国立市議会で「核兵器禁止条約への署名と批准を日本政府に求める陳情」が賛成多数で採択されました。陳情を提案した「核兵器禁止条約への署名と批准を日本政府に求める国立の会」の中心メンバーの一人として、同陳情署名を集める先頭に立ったのがあみのさん。市議会での陳述も行いました。

応援コメント

50年ぐらい前、私が原水爆禁止運動の団体で働いていた際、国立に平和委員会の若い会員がいることを知り、国立町の誇りに思ったことがありました。それがあみのさんでした。国立で長年取り組んできたあみのさんに、ぜひがんばってもらいたいです。

赤松 宏一
(原水爆禁止日本協議会 元代表理事)

応援コメント

東地域に公園が少ないことを心配して相談に乗ってくれたあみのさん。すぐに現地調査もしてくれ、市の職員に対策をもとめてくれました。地元の願いに寄り添う人です。

小沢 靖子
(東在住、「くにたちの高齢者福祉と介護保険を良くする会」代表)

あみの一也さんを推薦します

- 小倉 順子 (三多摩健康友の会国立支部長)
 - 柏木 隆之 (元国立市議)
 - 川口 智久 (一橋大学名誉教授)
 - 小坂橋義男 (年金者組合国立支部長)
 - 長坂 康子 (立川相互病院・産婦人科医師)
- (敬称略・50音順)